

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2393000068		
法人名	医療法人寿光会		
事業所名	グループホーム藤岡 ふじ		
所在地	愛知県豊田市深見町四反田1033-13		
自己評価作成日	令和4年1月24日	評価結果市町村受理日	令和4年5月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&Jigy_osvoCd=2393000068-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	令和4年4月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様だけではなく、職員も毎日楽しく過ごせるよう、大家族のような環境を作り、お互いにとって居心地の良い場所を作ること。新型コロナウイルスの影響で、外出やレクリエーションが思い通りにいかないことが多いなか、夏には手作り流しそめん、冬はホーム内でビンゴゲーム、カラオケ大会など職員でできることをしている。また、ご家族様が面会できない今、行事ごとに個別の写真を撮りご家族様に送っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームでは、感染症問題が続いていることで地域の方との交流が困難な状況が続いているが、駐車場の一部を地域の方のゴミ出し場所に提供していることで地域の方との関係継続にもつながっている。外出についても困難な状況が続いているが、運営母体の医療機関が市外にあることで、受診の際には利用者の外出の機会にもつながるとともに、自動車での移動を通じて、利用者が季節を感じる事ができる機会にもつながっている。日常的にもホームの敷地内に畑がつくられており、担当職員を中心に手入れが行われていることで、利用者野菜類を収穫したり、日常の食卓に追加する等の取り組みが行われており、利用者の楽しみにもつながっている。ホームでは、基本理念にもある「心の介護」を実践しながら、利用者が毎日の生活をのんびりと過ごすことができるような取り組みが行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	管理者・職員ともに共通の意識にて実践している 事業所内の理念を理解しサービス提供を実践している	ホームの基本理念の内容をホームの支援の基本に考えており、職員が笑顔で利用者に接することができるように、日常の支援を通じて理念の実践に取り組んでいる。また、理念には地域との調和についても掲げられている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	新型コロナウイルスでするので交流はないが、日頃の挨拶等しっかりと行っている コロナウイルスが落ち着いたら行事も行い交流していきたい	ホームは地域の町内会に入り、ホームの駐車場の場所を地域の方のゴミ出し場所として協力する等、地域の方との関係づくりが行われている。現状の感染症問題が続いていることで、地域の行事が中止になる等、交流が困難な状況が続いている。	地域の方との交流が困難な状況が続いていることもあるため、今後の感染症の状況をみながら、徐々に交流が再開されることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	利用者様とのごみ拾いなど行っている コロナウイルスによる自粛も考え行動している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	利用者を交えて民生委員や地域包括支援センターの職員の方と共に、お互いに情報交換し、意見を参考に今後のサービス向上に繋げるように努めている。	会議については、書面による実施が続いており、関係者には書面を通じてホームの現状を報告している。例年は地域の方の参加が得られており、地域の方との情報交換の機会にもつながっている。	会議については、書面による実施が続いていることもあるため、今後の状況をみながら、可能な範囲で会議の開催につながることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	地域包括センターの担当者、市町村主催の研修に積極的に参加し、施設での課題の報告・相談に意見を頂き、解決にむけ取り組んでいる。	当ホームの近隣に関連事業所が開設されていることもあり、当ホームの他にも関連事業所を通じた関係部署との情報交換等も行われている。また、地域包括支援センターとの情報交換等も行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	グループホーム指定基準及び禁止行為について周知している。利用者様本人の安全を第一に考慮し、玄関の施錠等やむを得ない時は本人・ご家族様の了承を得て、記録に残すようにし、職員で情報を共有できるようにしている。	身体拘束を行わない方針で支援が行われており、利用者の状況等をみながら外に出る等、利用者に合わせて支援が行われている。また、身体拘束に関する定期的な検討や職員研修を実施しており、職員への注意喚起につなげている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	威圧的、強制的な声かけや態度がないように努めている。言葉の暴力、暴言にも気をつけている。入浴や更衣の際に、身体の状態を確認し、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	施設全体で研修を行い、これから理解を深めて行こうと思います。コロナウイルスが落ち着いたら、外部の研修も取り入れていきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約・解約時には、書面と口頭での説明を行い、不明点がないか確認をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関に意見ポストを設置している。面会時には、近況を報告し、ご家族様からの意見を聞けるような状況を作るように心掛けている。介護相談員の来所は、コロナウイルスのため中止している。	現状、家族との交流が困難になっているが、例年は、ホームの行事等を通じた家族との交流の機会がつくられている。ホームに相談窓口(担当者)を設け、家族からの要望等の把握につなげている。また、毎月のホーム便りの作成も行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的に全体会やフロアミーティングを行い、職員の意見を聞き、利用者様、環境ともに改善へ努めている。	ホームでは、2~3か月に1回の頻度で職員会議を実施しているが、日常的なミーティングも実施しながら、職員からの意見等をホームの運営に反映する取り組みが行われている。また、管理者による職員面談の取り組みも行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員それぞれの話を聞き、やりがいやストレス等の確認を行い、それぞれが向上心を持って業務が出来るように努めている。環境への配慮もするように努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内で研修や、勉強会を開催している。研修を受けた職員は施設に落ちかえり、自施設で活かせるように発表や意見交換をしている。継続している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	コロナウイルスの為、参加できないが外部との情報の交換や意見の交換をし、自施設にて施設内研修に反映させている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	初回の面接、サマリー、認定情報などを参考にして、安心して生活が出来るよう取り組み、安心、安全、信頼へつながるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	作成したサービス内容をご家族様に確認して頂き、不安・不明点・要望等あれば聞き入れ対応している。面会時には、近況を報告し信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	出来る限り利用者様・ご家族の意見を聞き、必要としているサービスを見極め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者様の出来ることはやって頂き、職員は見守る。出来ないことは一緒に行い安心して頂く。自立支援も含めたサービス提供を行っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	利用者様の希望はご家族様にも伝え、共有しつつ実現できるように努めている。一年の抱負を掲示し、ご家族様とも共有できるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナウイルスのため、不必要な外出は避けている。落ち着いたら、ご家族様にも協力していただき、外食や買い物に出かけるようにしていきたい。	現状の感染症問題が続いていることで、外部の方との交流が困難になっており、家族との外出についても限られた範囲となっている。利用者の中には、年賀状等を通じた交流が行われており、関係が途切れないような機会がつけられている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	職員が中に入り、場を取り持ったり、話題を作り利用者同士がコミュニケーションを図り、レクレーション参加への意欲が出るよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約が終了してもご家族様へ連絡するときは、利用者様の状況を把握し、相談・支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者様の生活歴や希望を把握しその人らしい暮らしの実現に向けてサービス提供が出来るように努めている	職員間で利用者を担当する取り組みも行われているが、日常的な申し送り等を通じた職員間での情報の共有が行われており、利用者に関する意向等の把握につなげている。また、随時のカンファレンスも実施しており、意向等の検討が行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	一人一人の今まで過ごされてきた暮らし方、生活環境をご家族様からも聞き取り、把握出来るように努めサービス提供している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	利用者様の日々の過ごし方、その日の様子を経過記録に残し、心身の状態を全体で把握し自立支援へ努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	利用者様がその人らしく生活出来るよう、利用者様・ご家族様・職員の意見を取り入れ介護計画を作成し、本人様、ご家族様へ提示し、進めている	介護計画については、6か月を基本に見直しが行われており、利用者の状態変化等に合わせた対応が行われている。また、日常的にも計画作成担当者を中心に支援経過記録を残しながら、定期的なモニタリングにつなげる取り組みが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	利用者様一人一人のファイルがあり、日々の様子を日中・夜間を通し気づいたことや結果を記録し、職員間で共有し改善点があった場合は見直し、カンファレンスする		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	利用者様、ご家族様の安全・安心した生活を第一に考え、変化するニーズへ対応出来るよう柔軟な支援、サービスの提供に努めている。一人一人の身体状況・精神状態に合わせた支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	施設行事にボランティア、ご家族様にも参加していただき、利用者様と一緒に楽しんでもらえるようにしている。お便りでも報告している。(現在、コロナウイルスのためボランティアは中止)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	法人病院へ三ヶ月に一回の定期受診や他病院への定期受診へはご家族様が付き添われるなど支援している。月に四回の往診、週に一度の医療連携・訪問看護も継続している。	運営母体が医療機関であることで、利用者全員が母体の医療機関をかかりつけ医としており、職員による受診支援等の対応も行われている。また、運営母体の関連の医療機関の看護師との連携も行われており、医療面での支援につなげている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週に一度の医療連携にて相談し、今後の対応をどのようにしていくのか一緒に考えていく場面はある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療連携室と連絡を取り合い、利用者様の情報交換や相談などが出来ている。ご家族、利用者様に寄り添った提案や相談をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に施設で出来ることは説明し、納得して頂いている。往診医師や医療連携看護師のアドバイスを参考に同法人内の施設の紹介もしている。	身体状態が重い方も生活を継続しているが、ホームの基本方針としては、利用者の段階に合わせた医療機関等への移行が行われており、家族には看取り支援に対応していないことを説明している。また、関連の入所施設への移行支援も行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時、急変時のマニュアルを作成し、研修を行ったり冷静に対応出来るように対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に二回、救急避難訓練を施設全体で行っている。消防職員の派遣や詳しく意見交換等指導されている。自施設のみでの訓練や避難経路の確認なども取り入れている。	年2回の避難訓練を計画しているが、現状の取り組みとしては、職員間で緊急時の対応を確認する等の取り組みが行われている。近隣の運営法人の関連事業所があり、協力関係につなげている。また、備蓄品については、現状、入れ替え中である。	非常災害に関する備え等が充分に行うことができるように、今後の職員体制等の状況をみながら、ホームの非常災害に関する継続的な取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者にあった言葉を選び、穏やかに毎日生活出来るように支援し、プライバシー保護等している。	ホームの基本理念に「心の介護」という言葉を掲げているように、職員間で利用者への接し方や言葉遣い等の意識向上につなげる働きかけが行われている。利用者の自尊心等にも配慮しながら、日常的な申し送り等を通じた注意喚起も行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	自己表現が苦手な方などは表情や仕草を観察し、自己決定が出来るように無理のない範囲で働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者様がやりたいこと、意欲的なことを事前にリサーチし、計画を立て希望に添えるように努めている。誕生日会、クリスマス会、正月イベントなど。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	その日に着る服などは利用者様と選び、季節に合った服装を心掛けている。身だしなみにも気を付けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者様に合わせた食事形態や食器にも気遣い、楽しんで食事が出来るように工夫している。季節の食べ物なども取り入れる、食後の片付けや洗い物もできることは一緒に行っている。	ホームでは、担当職員を中心に、利用者の好みや嗜好等をはじめ、身体状態に合わせた食事形態の提供にも対応する取り組みが行われている。ホームの畑には様々な野菜が植えられており、日常の食材に追加する取り組みも行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量、水分量など食事チェックを作成して確認している。あまり摂取できていない方には、往診医師に上申し、栄養バランスドリンクやゼリーなど栄養補助を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食前手洗いうがいを行っている。口腔ケアは、その方に応じた支援を行っている。義歯の方は、定期的に洗浄剤を使用し、月に一度の歯科往診にて医師の指導を受け自施設で行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	利用者の状況に合わせた支援計画を立てている。拒否や抵抗があるか方には、職員を変えたり時間をおいて対応している。	利用者全員の排泄記録を残し、申し送りによる情報共有の他にも記録方法を工夫する等、利用者一人ひとりに合わせた排泄支援に取り組んでいる。トイレでの排泄を基本に、協力医や看護師との排泄に関する医療面での支援も行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘の方には、往診医師に相談したうえで下剤の使用、ご家族様にもご協力いただき個別にヨーグルトや牛乳などの食品も取り入れるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	週二回、順番や時間を偏らないようにしている。利用者様のその日の体調や気分で拒否された場合は別日に対応している。入浴中の体調変化も気を付けている。	基本的な入浴の曜日は決まっているが、利用者の状況等に合わせた随時の対応も行われており、週2回の入浴を継続している。利用者の身体状態に合わせて職員2名での支援も行われている。また、季節に合わせた柚子湯等も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	希望される方や体調不良の方など、朝食後、昼食後に昼寝が出来るように対応している。冬場は湯たんぽを使用し、エアコンによる乾燥防止にて加湿器や濡らしたタオルを使用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	利用者様それぞれの薬情を確認し、服薬チェック表を作成し飲み忘れがないよう努めている。服薬の際には、利用者様の前で名前・日付を読み上げ、利用者にも確認して頂くようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	洗濯物干しや畳み、掃除など利用者様の出来ることに合わせた役割を提示し、出来るよう支援している。また、食べたいもの等聞き、おやつや食事で提供できるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	昨年に続き、コロナウイルスのため外出行事は中止にしているが、外部の病院受診の際にはご家族様にも協力いただいている。外のお店に行くことはできないが、敷地内、近所の散歩等は行うようにしている。	現状、利用者の外出が困難になっている状況が続いているが、当ホームの協力医療機関が市外にあることで、受診の際には利用者の外出にもつながっている。職員間で検討を行いながら、喫茶等への外出の機会をつくりはじめている段階でもある。	ホームでは、感染症対策を行いながら利用者の外出の機会をつくる取り組みが行われている。職員間での検討を重ねながら、利用者の外出の機会が増えることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご家族様の同意のうえ、持ち込みは許可しているが、トラブルの元になるため基本的には持ち込まないようにお願いをしている。場合によっては、事務所保管とすることもあ		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	年賀状や季節ものは書ける方には書いて頂き、書けない方には一緒に書いたり代筆している。また、面会ができない昨今、ご家族様から電話を代わってほしいとの話があればできるだけ対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節の花や季節の貼り絵を玄関・廊下・リビングなどに飾っている。温度・湿度計を確認し、室温に注意、換気も行い気持ちよく過ごせるように支援している。	建物が平屋であることで、利用者が日常的に敷地内の畑等に出ることが可能な生活環境つられている。ホーム内も、リビングの他にも窓のある通路に利用者が寛ぐことができる椅子を設置する等、閉塞感を感じないような配慮が行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	気の合った利用者同士でお話ができるよう座席を工夫したり、ソファや座椅子を配置し、くつろげる空間、一人一人の時間を大事にしている。廊下の陽の当たるところには、椅子を用意し、一人の時間を過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた家具や食器、思い入れのある衣類などを持参して頂き使用している。各居室には家族の写真や絵などを飾れるようにコルクボードを用意している。	居室には、利用者や家族の意向等にも合わせて、身の回りの物の他にも趣味の物も持ち込まれており、一人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。また、居室内に家具類が設置されており、持ち込みの少ない方にも対応している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	歩行時に手すりに誘導したり、場所が分からなくなったときに誘導している。よく使うトイレや食堂が分かりやすいように目印や看板も作っている。		